

秋がお
すすめ

No.20 宇治の歴史街道

自然

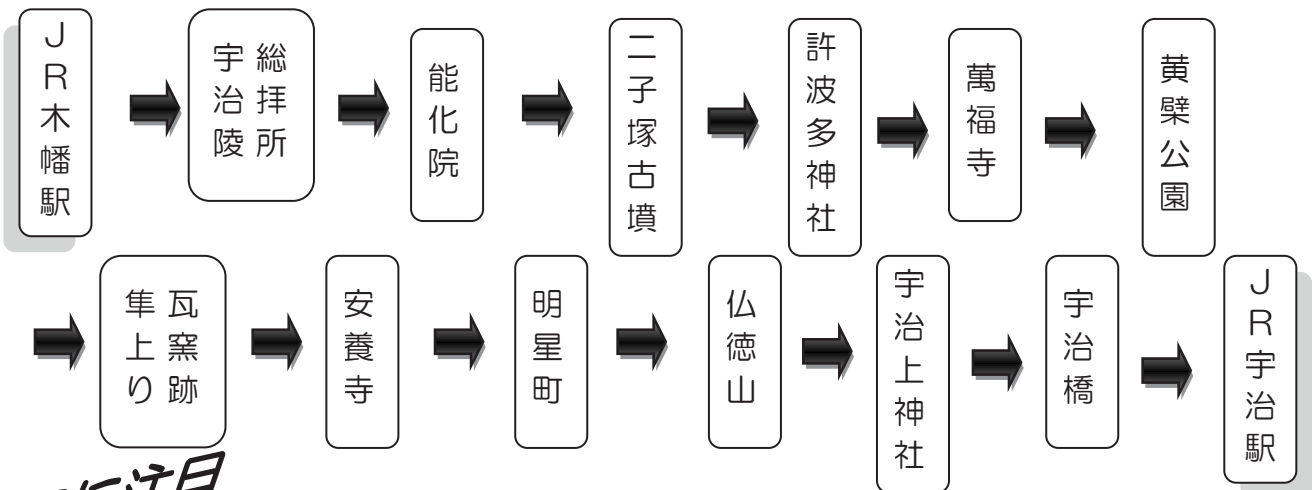
歴史

古代から近世へ 紅葉の道を歩く

おすすめポイント

巨椋池があった頃、池を見ながら奈良から京都、そして北陸方面へつながる古道として、古代から中世、近世へと幾多の貴族、武士、そして商人たちが通ったことでしょう。また、文学の世界では、物語上の登場人物たちも牛車や馬で通った道でもあります。街角に残る石仏や格子窓の家並みが、今にそれを伝えてくれます。

古代この地を支配したであろう人物が眠る二子塚古墳、飛鳥の豊浦寺の瓦を焼いた隼上り瓦窯跡、そして宇治陵、萬福寺、宇治上神社、宇治橋と古代から近世への歴史を体感できる道です。まだまだ新しい発見がありそうな街道を、昔を偲んで歩いてみましょう。



ここに注目



●街道から安養寺

寺の前を通る道は古北陸道と呼ばれ、この集落は近世、近代を通じて大鳳寺村と呼ばれた所である。安養寺は天台宗の古寺を浄土宗に改められ、1685（貞享2）年に現在地に移された。小野篁作と伝わる延命地藏が知られる。



●許波多神社（五ヶ庄）参道

萬福寺後方の丘陵“柳山”に柳大明神として祀られていたが、1876（明治9）年 陸軍火薬庫の増設により、御旅所であった現在の地に移った。向拝の臺股には社殿に因んで柳と馬の彫刻がある。

